

IV-256 軌間調節型パンドロール締結型レール締結装置の特性

長岡技術科学大学	学会員	○大滝永敏
長岡技術科学大学	学会員	吉沢信之
長岡技術科学大学	正会員	清水敬二
長岡技術科学大学	正会員	丸山久一
長岡技術科学大学		中村裕剛

1. はじめに

レールの弾性締結には、締結ばねとして板ばねと線ばねが主に使用され、欧米では線ばね、特にパンドロール締結がかなり普及している。ダクトイル鉄道まくらぎの開発研究の一環として、軌間調節を可能とする締結装置を試作した。本研究は、試作締結装置の特性を明らかにすることを目的とし、傾斜固定したまくらぎの載荷（斜横圧）試験およびレールのアップリフト試験の結果について報告する。

2. 斜横圧試験

(1) 実験方法

供試まくらぎおよび締結装置についてそれぞれ図-1および図-2に示す。

載荷方法は、図-3に示すように、欧米で多用されている傾斜したまくらぎのレールに荷重を載荷する方法を用いた。

測定項目は、荷重、レール頭部および底部の変位、ショルダーとまくらぎ間の隙間、ばねクリップおよびボルトのひずみ、レール底部の浮き上がり量（小返り）であり、ばねクリップおよびボルトのひずみ測定位置を図-4に示す。

載荷は、1回目0.2t刻みで最高5.2tまで行い、2および3回目は0.5t刻みで最高5tまで行った。

(2) 実験結果

1) レールの小返り

荷重とレールの頭部の変位の関係は載荷と除荷の線がループを形成し荷重とレール底部の浮き上がり量（小返り）の関係を図-5に示す。最も浮き上がりの大きい内軌側のレール底端部の浮き上がりは、同図に示すように1回目は2.5t以上までは零、それ以上の荷重では直線的に浮き上がりが増加する。2回目は1.5tから浮きが増加する。

ショルダーとまくらぎの座面との隙間は、荷重が零の状態で見受けられるが、これはばねクリップの施工に際して生じたものである。

2) ひずみ

載荷荷重5t時（横圧にして3.5t）でのばねクリップのひずみは、レールの浮き上がりの大きい内軌

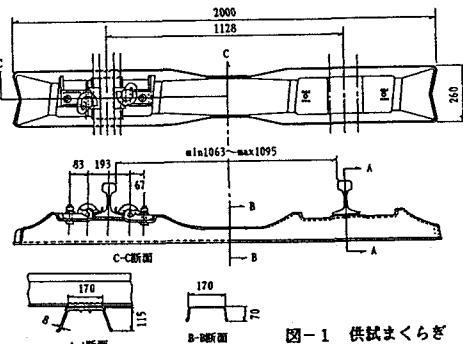


図-1 供試まくらぎ

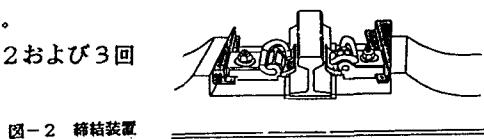


図-2 締結装置

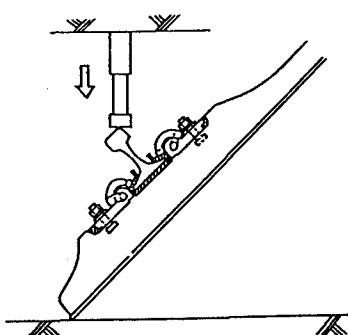


図-3 斜横圧試験方法

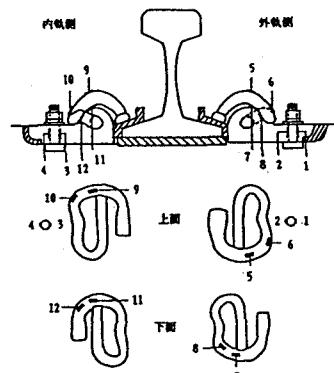


図-4 ひずみ測定位置

側では上面で -834 m/s 、下面で 1096 m/s と最も大きくなっているのに対し、外軌側では、上面で -169 m/s 、下面で 334 m/s と内軌側に比べてかなり小さくなっている。(図-6、7参照)

3. アップリフト試験

(1) 実験方法

供試まくらぎおよび締結装置は2.において用いたものと同一のものである。

試験は、まくらぎをコンクリート床に固定し頭部に鋼板を溶接した 50 N レール片をまくらぎに締結し、レールの鋼板を 30 t 油圧サーボジャッキに取り付けることにより、引張荷重を加えた。図-8に実験方法を示す。

測定項目は、荷重、レールの変位、ばねクリップおよびボルトのひずみ、ショルダーとまくらぎ間の隙間であり、ばねクリップおよびボルトのひずみ測定位置は2.と同様(図-4参照)である。

(2) 実験結果

1) レールの変位

荷重とレールの変位(浮き上がり)との関係を図-9に示す。レールの変位は、荷重が $0.8\sim 1.0\text{ t}$ 以上で認められ、それ以上の荷重に対しては、直線的に増加し、2.のレール底部の浮き上がりの性状に共通している。

2) ひずみ

ばねクリップのひずみは、1回目の載荷ではレールの浮き上がりが認められた 0.8 t 前後に認められ、2回目からはひずみの認められる荷重が小さくなる傾向がある。ひずみの増加するパターンは、内、外軌ともに同様であり先の2.の場合と対照的である。ボルトのひずみも内、外軌ともに同様のパターンを示している。

4. 結論

1) レールの小返りは、 1.5 t 横圧として 1.1 t 以上から生じ、小返り角は荷重と共に増加する。載荷と除荷の荷重とレール頭部の変位曲線はループを形成し、エネルギーを吸収する特性が注目される。横圧 3.5 t 時の内軌側ばねクリップのひずみは、上面で -834 m/s 、下面で 1096 m/s である。

2) レールのアップリフトは、荷重が 0.8 t 前後で認めらる。

謝辞：

本研究については、鉄道総合技術研究所軌道構造研究室の長藤敬晴主任研究員、久保田鉄鋼KK武庫川製造所の本間敬三所長に御支援・御協力頂いた。記して謝意を表する。

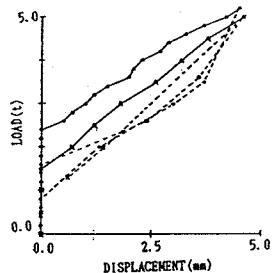


図-5 荷重とレール底部の浮き上がりの関係

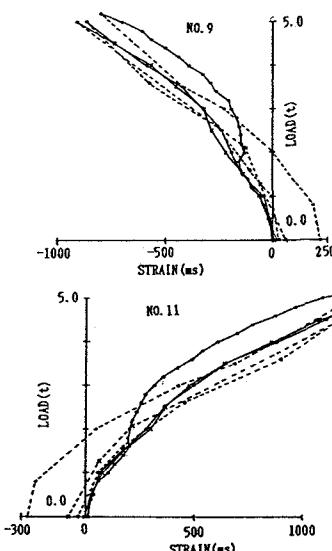


図-6 荷重とひずみの関係(内軌側)

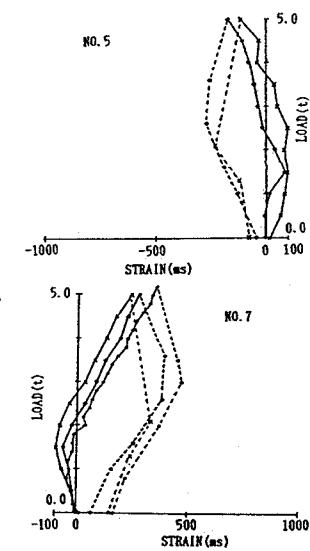


図-7 荷重とひずみの関係(外軌側)

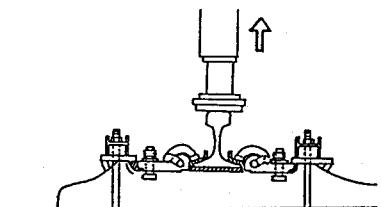


図-8 アップリフト試験方法

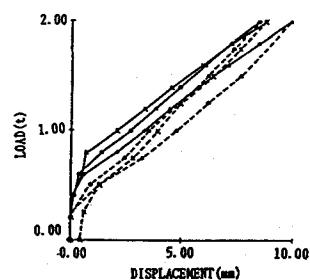


図-9 荷重とレール底部の浮き上がりの関係